

中村延子 プロフィール

1981年 9月2日 中野区生まれ

1994年 東京文化小学校卒業

小学校5年生の冬、ブラジルで(社)CISVの11歳キャンプに1か月参加し、9カ国の子どもたちと異文化交流を体験。この頃から国際社会に興味を持つ。

1997年 東京文化中学校卒業

15歳で単身アメリカに渡る決意。

2001年 米国アニーライトスクール高等部卒業

在学中、夏休みを利用し宝仙学園幼稚園でボランティアをし、卒業必須活動である50時間のコミュニティーサービスを、自分の出身地である中野で実施。1912年から続いている伝統行事のメイデーでは、高校生活での活動が評価され卒業生から1人選ばれるメイクイーンに選ばれた。

2005年 米国クレアモント・ピッツァー
カレッジ卒業

在学中、上智大学比較文化学部にてサマースクール受講。
2004年 北京大学医学部へ短期留学。

大学卒業式▶

2005年 民間企業に就職

株式会社ケン・コーポレーションから業務委託を受ける総務代行会社に就職。外国人賃貸住宅管理部業務の一端を担う。

2009年 衆議院議員手塚よしお秘書

地元事務所に勤務。

2010年 参議院議員蓮舫秘書

参議院選挙にて、秘書派遣で蓮舫大臣の選挙事務所スタッフとして奮闘。その延長線上で事業仕分けのお手伝いも含め、蓮舫事務所に出勤。

2011年 中野区議会議員 初当選

1,530票をいただき初当選。建設委員会、震災対策特別委員会を歴任。厚生委員会、地域支え合い推進特別委員会副委員長を務める。民主党東京都連青年委員会交流局副委員長、中野区国際交流協会評議員。

2015年 中野区議会議員 2期目の当選

2,513票をいただき、2期目の当選。区民委員会委員長、少子高齢化対策特別委員会に所属。現在は、立憲民主議員団副幹事長、総務委員会委員、少子高齢化対策特別委員会委員を務める。



▲兄と2人で祖母の故郷・広島県福山市にて



▲宝仙幼稚園でのボランティア活動



▲メイデーでのスピーチ



▲北京大学に短期留学



▲2011年4月中野区議選



▲中野区議会立憲民主議員団

中野区議会議員

中村延子 区議会レポート

Vol.22

平成31年1月号

発行／立憲民主議員団

中野区中野4-8-1

Phone: 03-3228-8876

Fax: 03-3389-8718

編集／中村延子事務所

中野区弥生町4-36-6-402

Phone: 080-6533-9450

Fax: 03-3380-3150

email: n@nakamuranobuko.jp



中村延子の想い

「あなたの政治を描きなさい」——

これは米国の高校在学中、アメリカ史の授業で初めて出た宿題です。私はその意味がわからず、先生に「私の政治」とは何かを質問したところ、「あなたの政治とは、あなたの生活のことを指しているのよ。あなたと関わりがあることや人はすべてあなたの政治なのよ。家族関係も友達関係もすべて政治なの」とおっしゃいました。

政治とは生活そのものである、と教えられました。

政治は身近なものであり、誰もが無関係ではいられないものです。それでも中々投票率があがらない、若者が政治に無関心でいられるのは、自分に無関係なものだと思い込んでいるからではないでしょうか。

イチ納税者の立場から、税金のムダ遣いに無視が出来なくて、人生を決断したのが8年前の事。多くの方から、それまでの政治をただすチャンスを与えていただきました。



NO! 選挙カー

騒音・渋滞の原因となり、税金まで使われる選挙カーは一切使用しません。

若手議員の突破力で、
変えられたことがたくさんありました。
議会の壁にはね返されたことはその何倍もありました。

政治姿勢として、
利権・特権・パーティー券に頼ることなく、しがらみゼロで
貫きとおせたことは、間違いなくこれまでの政治を大きく
変える一石になれたと思っています。

区民の注目度が低い中で、
古い政治文化が行われています。
お給料が下がっても、ちゃんと財布からとられる
大事なお金の行方を、
無関係ではいられない中野区の政治を、
是非とも厳しい視線で監視していただけたら
幸いです。

これからも、全力で責任を
果たしていく事をお約束します。

中野区議会議員

中村 延子





平成29年第2回定例会本会議にて一般質問

実現

女性

- 女性特有のがん検診受診票の直接送付
- 不妊相談支援事業の実施
- 不妊治療および検査に対する助成制度の創設(予定)
- 妊婦健診の充実

子ども

- 学習支援事業の拡充
- 3年生からの外国語活動先行実施
- 区内大学留学生と子どもたちの交流推進
- 保育の質ガイドラインの策定(予定)
- SNS等を用いた相談システムの導入(予定)

行政改革

- 予算編成過程の見える化
- 職員研修の充実
- 区長記者会見の映像配信

動物

- 災害時ペットの同行避難に関する事項の愛犬・愛猫手帳への記載

健康

- 骨髄ドナーへの経済的支援
- HPV感染のリスクに関する情報提供
- 風疹抗体検査およびワクチン接種の対象者拡大

その他

- 窓口での多言語対応
- 外国人留学生の就労支援
- Twitter等SNSの平常時の発信

提案

女性

- 災害時の妊産婦支援
- 妊娠出産に関する若年層への知識啓発
- 産後ケアの充実

子ども

- 長崎・広島の平和伝承事業への子ども派遣
- 区内小中学校のALT人材確保の支援
- 児童相談所設置に向けた準備(人材育成および確保)
- 学校体育館への冷暖房設置
- 区立保育園、幼稚園の存続
- 子どもの貧困の実態把握と必要な対策の実施
- 児童虐待防止施策の推進と社会的養護の充実

行政改革

- 職員2000人体制の検証
- 行政評価制度の根本的な見直し
- 職員のワークライフバランス推進
- 区報のオールカラー化
- 公契約条例の制定
- RPAの導入



平成30年第3回定例会
決算特別委員会にて
総括質疑を行いました。

動物

- 殺処分ゼロを目指した動物愛護施策
- 教育現場での動物愛護普及啓発

健康

- 受動喫煙防止に向けた公園の禁煙化
- 東中野西口の喫煙所設置の中止
- 区内保育園の保育士への麻しんワクチン接種勧奨
- がん教育の推進

その他

- 民泊の実態調査および仲介業者との連携
- 学校現場におけるLGBT差別解消への取組

これまでの活動

WOMAN SHIFTの活動

政策実現ができる女性議員を増やし、地方議員を女性のキャリアの選択肢の一つにすることをミッションにしているWOMAN SHIFTで運営メンバーとして携わってきた。若手女性地方議員の勉強会や全国研修を行うと同時に、大学院で学生向けの講演を行い、また議員を目指す若い女性の向けの勉強会も実施。東京若手議員の会と共催で勉強会も実施し、男女ともに切磋琢磨する仕掛けも行ってきた。

WOMAN SHIFTが▶
マニフェスト大賞特別賞
を受賞

WOMAN SHIFTで
新宿区の24時間認可
保育園を視察▼



▲WOMAN SHIFT全国大会

全国の仲間と連携

これまで、全国に人間関係のネットワークを築くことに努力をしてきた。民主党や民進党では、全国青年委員会の副委員長をつとめた。現在も東京都内だけにとどまらず、北海道から沖縄まで多くの同世代の地方議員と信頼関係を築いている。2017年には、全国の仲間と連携し進めた骨髄ドナーへの経済的支援制度がマニフェスト大賞で最優秀政策提言賞を受賞。



◀骨髄ドナー登録推進運動の
「日比プラン」でマニフェスト大賞
で最優秀政策提言賞を受賞



▲全国若手の仲間と連携

日本台湾青年研修に参加

2018年10月22日(月)～26日(金)の日程で、2018日本台湾青年研修に立憲民主党の代表として参加。これは台湾外交部が毎年行っている40歳以下の議員・政党関係者を対象とした交流プログラムであり、自由民主党、立憲民主党、国民民主党の28名が参加。日台関係や台中関係、地方自治、経済等幅広い分野について意見交換を実施。

▼台湾研修▶



若い世代との交流

この間、大学生や高校生のインターン生を事務所で受け入れてきた。また、聖学院高校の主権者教育の授業や、NPO法人Youth Createが主催する「Voter's Bar in Nakano」、学生団体ivoteが主催する「居酒屋ivote」にも参加。積極的に若い世代との交流を図ってきた。



(左上) インターン生と
(右上) 主権者教育の授業に参加
Voter's Bar in Nakanoに参加▶



～議会外での活動～

政 策



1 中野区を子育て先進区へ!

これからの未来を支えていく子どもたちが健全に育っていくためには、まず子育て世代へのサポートと環境を整えていく必要があります。孤立しやすい子育て中の親支援を行い、当事者の負担を軽減する取り組みを推進します。地域での居場所の確保・子育てコミュニティの活性化、アクティブシニアの活用を支援します。現在、深刻な状況にある子どもの虐待を防止し、地域社会全体で子どもを守ります。公園を子育て世代も楽しめる場所にします。公園での受動喫煙を防止し、子どもたちにとって安全な場所にしていきます。

2 税金のムダづかいを正す! 中野区でも事業仕分けの 手法を行政評価に!

まずはパブリックサーバントである議員や役人の特権からメスを入れることで、無駄に使われている税金を取り戻し、もっと有効に税金を使えるシステム作りをします。中野区でも事業仕分けの手法を取り入れた行政評価を実施し、採算のとれていない事業や区民のために行われていない事業など区の仕事をゼロベースで見直します。民間では考えられないような既得権と前例踏襲を打ち破ります。また、「お金」の使い道だけでなく、職員が稼働する「人」の使い道にも目を光らせ、ムダ遣いを正していきます。

3 グローバル人材を 育てるための教育を!

国内外を問わず、外国人の生活や文化、価

値観などの多様性に触れ、認め合うことは、世界の国や地域の人々と理解し良好な関係を構築や継続していく上でとても重要です。また国際交流はグローバル社会で活躍する人材を育てる大変有効な機会だと考えます。形式的な国際交流にとどまらず、区民、特にこれからの時代を担う子どもたちが多様な文化と触れ合う機会を今まで以上に作ります。国内で働くにしても、これからの世代は、世界との競争は更に激しくなっていきます。調査で明らかになった現在の日本人の子どもの英語力は世界でもとても低い順位となっています。新学習指導要領に基づき教科化される小学校5・6年生の英語。また3・4年生から始まる外国語活動。小学校での外国語活動の質の確保と向上を目指します。

4 男女ともに輝ける 社会の実現を!



誰もが輝ける社会実現のためには、区民一人ひとりのワークライフバランスが欠かせません。その実現には、男性の育児参加が必要不可欠。一方、男性の育児休業取得はとて低い水準にとどまっています。性別に関わらず、誰もが輝ける社会の実現を目指します。一方、女性が社会で活躍するために必要な性差を踏まえた包括的な健康支援はいまだ不十分です。女性の健康問題には、働く世代に多い子宮内膜症や不妊、産前産後の心身のケア、思春期の健康、虐待や性暴力、女性のがん検診やがん予防、更年期、老年期の認知症や骨粗鬆症予防など、ひとりの女性の一生の健康問題としてつながっているため、継続的で包括的な支援が必要です。ひとりひとりの女性が社会参画できるための基盤である女性の健康についての対策を進めます。

